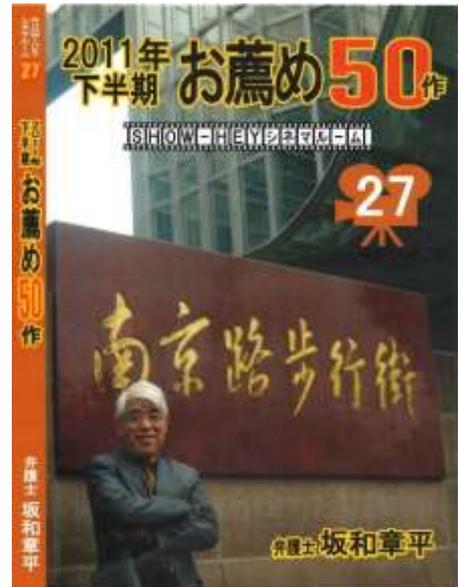


坂和総合法律事務所の新旧スタッフ、全員集合！  
今年は3人の新人弁護士と、力を合わせて！



(写真左上から)  
中野綾香 永田ひとみ 原田雅子 細谷優子 佐藤右衣  
正池香苗 坂和弁護士 宏展弁護士  
(平成23年11月22日撮影)

シネマ本は27冊目に！



二〇一〇年の上海万博後もさらに発展・拡大する上海。  
『シネマルーム27』の表紙は、その南京東路でポーズをとる坂和弁護士。さて、今年の中国での活躍は？

## 新年明けましておめでとうございます。

- 1) 3・11東日本大震災直後に書いた『市民と法』の論文『東日本大震災にみる不動産と復興計画・復興立法をめぐる諸問題』で私は、復興計画・復興立法のあり方を模索するとともに菅直人民主党政権の無策ぶりを憂えた。また朝日新聞の「ニッポン前へ委員会」が5月10日締切りで募集した「東日本復興計画私案」に私は、『震災復興担当大臣を国民投票で！』という大胆かつ現実的・実践的な論文を提出したが、残念ながら落選。しかし、就任9日後に辞任に追い込まれた松本龍氏やそれに代わって震災復興担当大臣に就任した平野達男氏の存在感の無さを考えれば、やはり坂和私案を採用すべきだったのでは？国会では建築制限の立法だけは決めたが復興計画・復興立法は遅々として進まず、復興院の全体像すら確立していない。この国は一体どうなってしまったのだろうか？
- 2) そんな中11月27日(日)に実施された大阪市長と府知事のダブル選挙では、大阪維新の会が優勝！開票と同時に橋下徹新市長と松井一郎新知事の当選が決まったことによって「府市100年戦争に終止符」が打たれ、大阪都構想の実施に向けた第一歩が始まった。議会の承認、住民投票、地方自治法の改正など各種ハードルは高いうえ、その中味の詰めが不可欠だが、争点が明確に示された中での「民意」は重い。大阪府下の民主・自民・公明の既成政党が機能不全に陥る中、国政への進出も視野に入れた維新の会の動きに注目したい。野田佳彦「どじょう内閣」が行き詰まったら、ひょっとして今年中に総選挙と政界再編成も？
- 3) 昨年は中東各地では「ジャスミン革命」の嵐が吹き荒れ、ヨーロッパ各国では政権交代が相次いだ。今年はアメリカ、ロシア、中国などが選挙と指導者交代の年。太平洋を挟んで米中の政治的・経済的・軍事的な「せめぎ合い」が厳しさを増す中、自由だけはまかり通るものの国益という視点がほとんど失われている今の日本国は、いかなる外交を？
- 4) 経済的不況が続き日本社会の閉塞感が強まる中、弁護士や弁護士会を取り巻く情勢は法科大学院の淘汰・再編、新人弁護士の就職難など、ますます厳しくなっている。昨今の若者たちに蔓延する「内向き志向」が弁護士にも広がれば、その活力が失われることは必至だ。私はここ10年以上、都市問題の実践とそれに関連する数々の法律書の出版活動、映画評論家活動、そして中国関連プロジェクトの展開など、あくまで独自の活動を目指してきた。そんな中、昨年作家・莫言との対談、上海への出版打合せ旅行などの中国関連プロジェクトが順調に続いたが、日中国交回復40周年を迎える今年にはさらにそれを発展、加速させたい。
- 5) 3年間続いたNHKの『坂の上の雲』が終了した今あらためて日本の「立ち位置」を確認し、私たち国民一人一人が今後どんな選択をし、どんな行動を取るのかを考えたい。皆様の今年一年のご健康を心から願っています。 2012(平成24)年元旦

坂和総合法律事務所  
所長 弁護士 坂和 章平

## 1 事務所体制

- (1) ひろ先生こと坂和宏展弁護士が十分な戦力として実力を発揮し始める中、昨年8月に金子事務局長が退職したため、事務局体制は大きく変わり、弁護士がより細かいところまで目を配らなければならなくなった。そのおかげで、私は映画鑑賞の数が減少気味？
- しかし新人事務局の補強は順調で、佐藤右衣は懸命に食らいつき、また法科大学院卒の原田雅子は最初から馬力全開状態で、難解な都市計画法の追録本の原稿作成に取り組んだ。日本国の再生に有為な人材が不可欠なのと同じように、わが事務所でも有能な人材が必要。その補充・補強には常に努力していきたい。
- (2) 2012年1月からは、新人弁護士3名が同時に入所することになった。当然3人の性格や能力には違いがあるが、最近当事務所に増えている難解かつ大規模な事件にそれぞれの能力を発揮してもらいたい。また、私は未だに銀行のATMから預金を引き出すことも、封筒に切手を貼ることもできないが、最近は弁護士も印紙代の計算から訴状の提出まで何でも自分でやらなきゃダメな時代。事務局長から手取り足取り教えてもらえた当事務所の伝統が消滅する中、新人弁護士の自問能力、自立能力、自開能力が不可欠だから、各自その真価が問われるはずだ。
- (3) 昨年3月末にコートビルすぐ近くの敷地20坪の4階建てビルを倉庫用として一棟借り。その代わりに2階の大会議室を賃借用として、現在テナント募集中！そして、4階南側の部屋を会議室にしたが、10月末には4階北側の部屋が空いたため、12月からは大会議室としてその使用を開始した。広くて豪華な会議室は人数が増えても使い勝手が抜群だから、仕事はますます順調に・・・。

## 2 出版

- (1) 『眺望・景観紛争をめぐる法と政策の新局面』の出版
- 昨年の事務所だよりで公約しながら債務不履行になっていた民事法研究会の原稿が完成し、現在印刷中。今年3月には発売されるはずだ。そのメインは第1に「国立マンション事件」と「鞆の浦事件」。第2は京都市眺望景観創生条例の制定。芦屋市が市全域を景観地区に指定した条例もすごい。04年6月に制定され05年6月に全面施行された景観法がやっと定着し始めたが、急激に伸びていた中国人観光客も3・11東日本大震災の影響でプレーキが。「観光立国宣言」を真に根付かせるためには、良好な景観形成が不可欠

だから、是非本書の活用を！

## (2) 新日本法規出版の各種追録本の執筆に奮闘

今やすっかり色あせてしまった「政権交代」だが、民主党政権の重要政策の1つが地域主権。昨年4月には第1次一括法が、8月には第2次一括法が制定され、多くの法律が改正された。それに伴って『わかりやすい都市計画法の手引』の追録本を執筆したが、これは悪戦苦闘の連続だった。『問答式土地区画整理の法律実務』や『Q&A災害をめぐる法律と税務』の追録本執筆も同様だが、こんなワケのわからない法律を日本国民の誰が理解できているの？これでは法治国家とか法律による統治とかは空理空論に？

## (3) 『実務不動産法講義』の改定版執筆に着手！

民事法研究会が法科大学院用教科書として企画した「実務法律講義」シリーズNo. 9の『実務不動産法講義』の出版は、05年4月。同書は民法だけから学ぶ不動産法ではなく、都市計画法を「母なる法」として不動産法の構築を狙った実践的・実務的な教科書となって存在感を発揮した。それから7年、日本国の変化（衰退？）とともに、不動産法をとりまく状況は大きく変化した。3・11東日本大震災からの復興計画や土地利用のあり方なども含めて不動産法はますます複雑になっていくから、そのフォローは大変。今年3人の新人弁護士の協力も得てその改定版の執筆に着手し、近い将来の完成を目指すつもりだ。

## 3 中国関連 中国語版の出版と中国語

### (1) 『名作映画には「生きるヒント」がいっぱい！』の中国語版が！

毛丹青教授に集う学生たちが中国語に翻訳してくれた『生きるヒント』の中国語版は、今年3月には上海文芸出版社から出版されるはず。その中には莫言との対談や毛丹青との対談も入る予定だからお楽しみに。50作の中には中国映画の名作が10本も入っているから、中国でもバカ売れ！そんな期待を持って、出版を記念する中国の大学のイベントや上海ブックフェア等に積極的に参加して発言しなければ。

### (2) 中国語検定は？

NHKラジオ講座を中心とした中国語の勉強は今年3月で丸3年。中国語検定4級と3級を受けることを公言して自らにプレッシャーをかけてきたが、その受験日は11月27日（日）。落ちたら「仕事が忙しかったから・・・」という弁解を用意しているが、さてその結果は？

## 坂和章平とすばらしき人たち～交遊録

### その11～映画監督・俳優 塩屋俊氏（再登場）

1) 塩屋俊監督とは、事務所だより第12号（09年新年号）交遊録その5で紹介したとおり、『0（ゼロ）からの風』（07年）以来の交遊。『きみに届く声』（08年）に続く『ふたたび swing me again』（10年）では企画・脚本段階から参加し、クライマックスシーンの撮影には夫婦でエキストラとして参加した。さて白髪頭に気づいた方は？

彼の中国での展開も拡大し、2010年の上海万博では、阪神・淡路大震災で実際に姉を失った古箏奏者伍芳（ウー・ファン）を起用した音楽劇『彩虹橋 in



2011年9月、2人共お気に入りの鰻料理『志津可』にて

上海万博』を大成功させ、神戸では『彩虹橋』を凱旋公演した。そんな彼は東京で「ウィル・ドウ」を経営すると同時に、大阪では「アクターズクリニック」を経営しているから、今や忘年会の相互参加とスタッフ同士の交流は年中行事となったが、近時は弁護士業務としての関与も次第に拡大中。

2) それは、映画監督として創造の世界に生きていく上で必然的に伴う特許権の問題や資金集め・資金回収の財務問題などが活動の広がりと共に拡大してきたためだ。最新作『種まく旅人～みのりの茶～』の制作、映画『原信太郎 鉄道模型の世界』の制作や学校法人大手前学園で上映するミュージカル『大手前ルネッサンス／ミュージカル』の制作などはいずれも企画段階から相談にあずかっている。近時は更に大きなプロジェクトも進行中。そのひとつは、マーロン・ブランド、ロバート・デニーロなど数々の名優を輩出したアメリカの名門演技学校である「ステラアドラー校」と相武紗季、桐谷健太など注目の若手俳優を多く指導してきた日本を代表する演技学校アクターズクリニックとの業務提携。これは彼の俳優時代のアメリカでの数々の活躍を基盤としたものだが、これが軌道にのれば、より表現力を持った若手俳優の育成に寄与できることまちがいなしだ。

3) もう一つは、11年10月から始めた「Remember 3.11」を合言葉とした「HIKOBAE PROJECT」の展開。これは東日本大震災で大きな被害を受けた相馬市の復興記録であるドキュメンタリー『HIKOBAE』の制作をメインとし、ドラマ制作やノベライズ出版、さらには日米での舞台公演などを内容とした大プロジェクトだから、弁護士として関与すべきテーマも多い。同時並行的に複数のプロジェクトを進め、東京・大阪間のみならず海外を駆け巡る彼は、頭の回転も速ければ舌の回転も速い。しかし、こちら弁護士としての案件処理のスピードにおいては誰にも引けをとらないつもり。

4) そんな2人のすばらしい交流ぶりは、焼肉+焼酎、焼き鳥+焼酎にとどまらず、互いの本業でのぶつかり合いに深化し、かつ激化している。「新しいもの好き」と「何でも前に突っ走れ」は2人に共通する性格だが、弁護士業務として彼の業務展開をフォロー・チェックしていくためには、私の方が多少引き締めなければ、と自戒している。今後も同時並行的にあれこれの企画が持ち上がることは確かだから、細かい実務を担当してくれる強力な助っ人・坂和宏展弁護士と共に、塩屋監督の期待に応えていきたい。

## 中国人作家・莫言との対談は？有馬温泉での温泉談議は？

(2011年7月26～27日)

1) 事務所日より第17号盛夏号で予告したとおり、7月26日、アジアで最もノーベル文学賞に近い中国人作家と言われている莫言との対談が実現した。読売新聞による公式の日本訪問の合間にこれを企画したのは、今や坂和の「好朋友」となった神戸国際大学教授の毛丹青。今回は①坂和と総合法律事務所での午前中の公式対談の他、②大阪天満宮の斜め向かいで、日本初のノーベル文学賞作家川端康成生誕の地にある料亭・相生楼での昼食会、③超豪華なりゾートホテル・エクシブ有馬離宮にゆっくり泊り、夕食時はもちろん、莫言の大好きな温泉に浸かっている温泉談議(?)と盛りだくさん。さてその成果は？

2) 毛丹青から6月9日午前8時頃にかかってきた電話によって企画が決まった後、坂和は急遽“文学おじさん”に变身！莫言原作の映画は『紅いコーリャン』(87年)、『至福のとき』(02年)、『故郷の香り』(03年)の3本を観て評論していたが、原作本は読んでなかったため直ちに莫言の著書を買って求め、まずは最新作『蛙鳴』を家系図を作成しながら読破。続いて『赤い高粱』、『白檀の刑』上下、『築路』とメモを作りながら読み進んだが、『転生夢現』上下と『四十一炮』上下は残念ながら途中まで。しかし坂和事務所恒例の7月25日の天神祭パーティーを中止してまで猛勉強した甲斐あって、直前には各種のレジメと資料が完成。頭の中が莫言作品一色となった状態で対談に臨むことに。(写真1、2)

3) 1955年に山東省高密県の農村で8人兄弟の末っ子として生まれた莫言の子供時代は、飢えと孤独がテーマ。中農だった莫言一家は1966年から77年まで続いた文化大革命の中で苦しい思いを。7

6年に人民解放軍に入った莫言は85年から作家活動を開始。張(チャン・)芸(イー)謀(モウ)監督の『紅いコーリャン』(87年)によって、一躍莫言の名前も世界中に知れ渡った。その後次々と続く大作の発表に世界はビックリ！そんな莫言との対談は①坂和の莫言作品に対する評価や質問に始まり、②坂和的中国電影評価③日中文学作品評価④作家と弁護士との感性の異同⑤毛丹青を含めた3人が生きてきた日中の時代変遷の中での問題意識のあり方、等々多岐に及んだ。これらはすべてVTRとICレコーダーで録画・録音しているので、折りに触れて公開していきたい。約2時間の対談後は、①記念写真の撮影②莫言からの書の贈呈③サイン会を経て終了。実に有意義な対談となった。(写真3、4)

4) 「相生楼」ではまず川端康成生誕の地と刻した石碑の前で記念撮影。古式豊かな料亭にふさわしい松花堂弁当を食べながらもいろいろと盛りあがった。(写真5、6)

夜の有馬離宮での話題の中心は、①7月23日に中国の温州で起きた高速鉄道脱線事故の報道②その賠償処理についての弁護士としての坂和の見解、となった。毛丹青自慢のアイパッドによれば、この鉄道事故について莫言や毛丹青がツイッターの中国版「微博」で発言すれば、その反応は数万～数十万件に上るらしい。午前中の公式対談はもちろん、有馬離宮での温泉あがり談議がツイッターにのれば、たちまちそれが中国全土を駆けめぐらさるわけだ。その影響力を考慮しながら、3人の温泉談議はいつまでも・・・。(写真7、8)

(写真1～8は次頁に)

莫言対談写真 1～8



(写真1)

(写真3)

(写真5)

(写真7)

(写真2)

(写真4)

(写真6)

(写真8)

5) 翌朝はゆっくりと露天風呂に浸り、バイクの朝食を食べ、チェックアウト。その後、有馬離宮内で記念撮影をした後、有馬温泉街の散策へ。狭い路地ではまず毛と猫、莫言と猫などの芸術写真(?)を。続いて極楽寺や太閤橋等で記念の2ショットを。これにて約1時間がアツという間に過ぎ、あとは特急バスで一路大阪へ。その後莫言は京都駅にて読売新聞社担当者のお迎えを受けて、東京での講演会に臨むことに。(写真9、10、11、12)



(写真9)

(写真10)

(写真11)

(写真12)

上海旅行記 (2011年11月3日～6日)

<はじめに>

私が上海を訪れるのは団体ツアー旅行や出版打合せ・講演などの「お仕事」をあわせて6度目。今回は毛丹青夫妻と私たち夫婦の4人旅だ。その主たる目的は09年に出版した初の中国語本『取景中国』に続いて、中国語版『名作映画には「生きるヒント」がいっぱい!』を出版するための打合せと、表紙撮影等の写真撮影だ。プロデュースするのは前回に続いて、毛老師だが、彼には同済大学訪問の予定があるうえ、いつもハプニング的な出会いがあるからそれも大いに楽しみ。

<1日目 11月3日(木)>

- 3日の17時30分、上海浦東空港到着。外に出るとやけに蒸し暑く空はどんよりと曇っている。お迎えのガイドさんに聞くとここ数日の上海はこんな天気らしいが、こりゃ雨模様のせいだけではなく大気汚染のせいだと確信。上海万博は大成功に終わり、水洗トイレの整備とタクシー運転手のマナー向上は進んだが、大気汚染対策はまだまだ不十分と実感。
- チェックイン後すぐ近くの「今一靚湯」で食事。超豪華でメチャうま(写真1)。青島ビールもバドワイザーもアルコール度が低いのが少し不満だが、それは仕方なし。ロンジモント上海ホテルの部屋は37階。静安寺近くの繁華街にある超豪華なホテルでプール・サウナ完備のフィットネスクラブやテニスコートもあり、その広さは日本ならスイート並み。部屋から見下ろすビル群は壮大だ(写真2)。



(写真1)

(写真2)

<2日目 11月4日(金)>

- 上海市四平路にある同済大学には国際文化交流学院があり、近々毛老師はその講師に?そんな打合せのため、午前中は歴史と実績を誇る同済大学を訪問し、陳強院長以下の先生方と意見交流。そこでは持参した私の『取景中国』とシネマ本を贈呈(写真3)。昼食は構内の何とも豪華なレストランで会食(写真4)。大学内にこんな施設があることにビックリ!
- 昼食後は南紹興路にある上海文芸出版社を訪れ夏青根社長や編集・デザイン・写真担当の王剛さん、王偉さんたちと打合せ(写真5)。モデル役になっての紹興路散策(写真6)やパソコン画面の編集にも立ち会い、充実した時間を(写真7)。
- 夏社長主催の今夜の会食は「圓苑」という一流のレストラン。そこには「アエラ」に登場したアイドルスター郭敬明氏をマネジメントしている会社ZUIの美人副社長陳佳の姿も。(写真8)(写真は次頁)

(写真3)

(写真4)



(写真5)



(写真6)



(写真7)



(写真8)

<3日目 11月5日(土)>

1) バイキングの朝食を腹いっぱい食べた後、腹ごなしを兼ねてホテル周辺を散策。周辺には三輪車が走ると共に昔ながらの2階建ての庶民の共同住宅や、洗濯物の干された高層住宅もある(写真9、10)。またMOTEL 168元、MOTEL 268元という看板は1泊168元、268元のホテルらしいが、これが日本でいう1泊7000円程度のビジネスホテルクラス(写真11)?それと比べるとロンジモント上海ホテルはまさに超デラックス(写真12)。さらにひやかしのつもりで入ったホテル1階の美術品店では約30分間店員の巧みなセールストークとバトル合戦の末、ネックレス3個と腕輪1個を1万円で購入したが、さてその損得は?



(写真9)



(写真10)



(写真11)



(写真12)

- 2) 11時から毛老師と共に上海書城に行き、毛老師の関連するさまざまな本の売れ行きを含む実態の調査。本日は知人から紹介状を頂き、かつ毛老師がメールを送っていた上海交通大学法科大学院の李衛東教授ら数人の面談予定者と連絡がとれなかったため、夕方は毛老師は親族訪問に、私たち夫婦は南京路散策とバンド(外灘)見物にと別行動をとることに。
- 3) 「上海書城」見学後、昼食のために入ったレストランは毛老師お薦めの四川料理で有名な「渝信川菜」。準個室(?)で食べる「丸一匹の魚の身を唐辛子と共に煮込んだ鍋の料理」が名物で、その味は絶品。しかも値段が安い。この店は近々日本進出するらしいが、こりゃ大流行りするのでは?
- 4) ビールも4、5本飲み腹いっぱい毛老師と別れた後、私たち夫婦は南京東路をバンド方向(東)へ向かったが、雨が降ってきたため、バーゲンセールをやっていた「POLO」の店に入り、財布等を購入。そして『シネマ27』の表紙写真を撮影すべく南京東路を行ったり来たり(写真13、14)。さら

に世紀広場(写真15)や人民広場にも。

(写真13)



(写真14)

(写真15)



(写真16)

5) 時間はちょうど夕方6時。そこでバンドの夜景見物のため再度南京東路を外灘まで歩くことに。外灘から見る黄浦江東西の夜景は絶品だ(写真16)。写真を撮りながら黄浦江沿いを南に歩いていくと、外灘クルーズのチケット売り場があったため、1枚1000円でこれを購入し、7時から1時間のクルーズに出発。ビール片手に美しい夜景をながめながら、モデルをしながらの船内の撮影はまさに至福の時となった(写真17、18)。

(写真17)



(写真18)

<4日目 11月6日(日)>

- 1) 今回の上海旅行の目的の第1は出版の打合せ、第2は毛老師人脈との交流だが、第3として旅の中での毛VS坂和对談の実施があった。7月26日に行った「莫言VS坂和」対談に加えてこれを『名作映画には「生きるヒント」がいっぱい!』の中に取り込もうという狙いだ。そんな企画が最終日に実現。場所はホテル1階の喫茶室。愛用のICレコーダーを前に、毛老師の質問に坂和が答えるという形で進行したが、その中味は濃いものに。また、途中休憩時には毛老師のアイパッドを使い、「日本では国を相手とする訴訟は99%敗訴だが、安倍野再開発訴訟で坂和弁護士は奇跡的に勝訴した」旨の「微博」(ウェイボー)を対談の写真付きで流すと、次々とその反響が。なるほど中国の微博、そして毛老師の「微博」の威力はすごい。(資料19)
- 2) 対談後は昼食のためすぐ近くの「湯司令」へ。ここもおいしくて安い大衆的な店だが、ここではじめて牛蛙を食べることに。当初は名前を聞いただけで莫言の小説『蛙鳴』を思い出して拒否していたが、挑戦したところ、これが極めて美味。今後やみつきになりそうだ。(資料20)

(写真19)



(写真20)

## 昨年の総括と2012年に向けての弁護士坂和宏展の抱負と決意

### (1) 近況

昨年末で早くも30歳。大台に乗った気分とまだまだ若造という気分が半ばする中、あまり変化のない一年が過ぎました。2011年は良くも悪くも「落ち着いた一年」だったと思います。

### (2) 執務状況

昨年は金子事務局長が退職したため、私に回ってきたのは「IT担当」の役目。もともと私は「電気好き」で、子どものころから家の中のテレビ・ビデオの配線、録画は私の仕事、中学生になってすぐパソコン（当時はWindows3.1の時代）をいじり回し、中高時代は日本橋の電気屋街に日参（学校が近所だったので）、大学時代にはスピーカーやアンプの自作に精を出し、と文系に似合わないマニアぶりを発揮していました。どちらかといえば私の得意なのはハードウェアで、ソフトの使いこなしはさほどのレベルではないのですが、それでも事務所で一番詳しいのが私になってしまったので、事件処理に加えて、「ひろ先生、〇〇が××になってしまったんですけど、どうすればいいですか」と質問が飛んでくると、すぐに対応。さらに、昨年9月から坂和弁護士も「必死の猛勉強」により親指シフト入力を卒業(?)してローマ字入力を身につけ、メールの処理などは自分で行うことが多くなったのですが、こちらは基礎が分かっていないのですぐ「おーい、ちょっと」の声がかかったりと大

忙し。デジカメ写真の処理、録音データの処理なども、ちょこちょこ行っています。

### (3) 「デジモノ」活用術

そんな私ですが、自分が使う道具については意外と慎重派。iPhoneで始まったスマートフォンブームは3世代目の「iPhone3GS」ではじめて乗っかり、iPadで始まった「タブレット」ブームにもまだ乗らず、という現状です。現在はauから発売されているHTC「EVO」でWiMAXの高速回線とテザリングを活用しながら外出先でも仕事ができるよう工夫しています。常時、情報収集は怠っていませんので、自分の用途にピッタリのものを選んで仕事にも活用し、効率化につなげたいと思っています。

### (4) 今年目標

今年は新人弁護士が3人も入所してきます。以前の東京の勤務先でも弟弁・妹弁は何人も指導してきましたが、坂和事務所ではじめて後輩ができることとなります。どのような形になるか自分でもまだイメージが掴み切れていませんが、一日でも早く仕事のやり方に慣れてもらい、弁護士として、実力を発揮してもらえるよう、できる限りサポートしていきたいと考えています。また、「教えることは自ら学ぶこと」ですので、自分自身についての研鑽も怠らないよう、今年も引き続き努力していきたいと思っています。

## 新しく入所する3人の新人弁護士たちの紹介 文責 弁護士 坂和宏展

弁護士の就職難が話題に上る昨今ですが、2012年1月から、坂和事務所には司法修習を終えた新人弁護士3名が入所します。どのような活躍をしてくれるか、期待を込めて3名のプロフィールを紹介します。なお、本人たちによる自己紹介&自己PRは、次回夏の事務所だよりに掲載予定です。新人弁護士たちをよろしくお祈りします。

<仲田隆介(なかつ りゅうすけ)>

昭和58年生れ。平成19年東京大学法学部卒業、平成21年東京大学法科大学院修了。平成22年度の新司法試験に合格し、新64期司法修習生。大阪弁護士会の就職説明会で坂和事務所の説明を受け、坂和事務所は「きびしい事務所」とのことだが、「自分を成長させてくれるような、高い要求水準に基づいた厳しい指導を受けたい」と志して入所を決意。実務に向けては、『神は細部に宿る』の精神を忘れずに、丁寧な事件処理を心がけたい」とのこと。執筆活動にも意欲を燃やす。

<永井章紀(ながい あきのり)>

昭和59年生れ。平成19年大阪市立大学法学部卒業、平成22年同志社大学法科大学院修了。平成22年度の新司法試験に合格し、新64期司法修習生。大阪弁護士会の就職説明会が縁で入所を決める。学生時代、3年以上続けた食品工場での力仕事と梱包作業のアルバイトで「学校のない日は、朝から晩まで働きながら法科大学院入試のための勉強をやっていた」という体力と同時並行処理能力をアピール。理想の弁護士像は「ジェネラリストでありスペシャリストであること」。

<松井麻子(まつい あさこ)>

昭和60年生れ。平成20年大阪大学法学部卒業、平成22年京都大学法科大学院修了。平成22年度の新司法試験に合格し、新64期司法修習生。大阪大学法学部在学中、

法律相談部に所属し、坂和章平、宏展両弁護士と知り合う。合格後も坂和事務所の見学を重ね、大事件の証人尋問を傍聴するなど坂和事務所の雰囲気を感じながら入所を選択。傍聴レポートを読んだ章平弁護士も「これやったら、大丈夫やろ」と太鼓判。映画鑑賞好き、語学の勉強も好きというから章平弁護士と話が合いそうだ。

## 新人事務局の自己紹介~佐藤右衣

はじめまして！平成23年9月に入所した佐藤右衣と申します。面接時、「ウチの事務所は正直、厳しいですよ」と言われましたが、「自分自身の向上の為に頑張るぞ」と考えて、3日間の体験入所を経て現在に至っています。今でも怒られる事の多い毎日ですが、一人の社会人として、また一人の法律事務職員としての自覚を強くしている毎日で、とても充実しています。また、坂和事務所は中国関係の面白い仕事も多いため、京都外国語大学卒の私にとっては、大学時代に専攻していた中国語も更に勉強のしがいが出てきて嬉しく思っています。大学では毛丹青先生の授業を取っていましたが、毛先生は坂和先生の親しいお知り合いで、昨年11月の坂和先生ご夫婦と毛先生ご夫婦での上海旅行には、とてもビックリしました。まだまだ半人前の私ですが、よろしくお祈りいたします。

## 新人事務局の自己紹介~原田雅子

昨年11月入所の原田雅子と申します。以前、法律事務所一年ほど勤務していましたが、その後法科大学院に進学し、新司法試験の勉強をしていました。法律用語の中に映画の話も飛び交う元気な事務所の中で、入所早々、「わかりやすい都市計画法の手引」の追録作成作業に取り組むことが出来たのは、新鮮な驚きでした。坂和総合法律事務所の事務員として学ぶべきことはたくさんありますが、法科大学院で学んだ知識を生かして、早く役に立つ事務員になりたいと思っています。宜しくお祈り致します。

映画評論家『SHOW-HEY』の部屋  
～お正月のお薦め作品～

『灼熱の魂』（カナダ、フランス映画）  
2012年1月7日、テアトル梅田 他にて公開  
監督・脚本：ドゥニ・ヴィルヌーヴ 出演：ルプナ・アザバル 他  
民族抗争と宗教対立は日本人には縁遠い存在だが、中東では？  
奇妙な母親の遺言を実行するため、カナダから中東へ飛んだ双子の姉弟が歩む「母のルーツをたどる旅」は、暗殺あり、拷問あり、レイプありの壮絶なものだったが、そんな中でも新たに生まれてくる命の価値とその行方は？報復の連鎖のむなしさは明らかだが、「赦し」はとてつもなく難しい。しかし、本作のヒロインが放つ、灼熱の魂の叫びなら・・・。

『サラの鍵』（フランス映画）  
2012年1月21日、シネ・リーブル梅田 他にて公開  
監督・脚本：ジル・パケ＝ブレネール  
出演：クリスティン・スコット・トーマス 他  
あなたはナチス・ヒトラー時代の「フランスの恥部」ともい  
うべきヴェル・ディブ事件を知ってる？ヴェル・ディブから強  
制収容所に入れられた女性サラの取材に自分の人生を重ねてい  
く女性ジャーナリストの生き方に感銘！もしあの戦争を、そし  
て強制収容所からユダヤ人が生き延びていけば・・・取材を  
通じて明らかにされるサラの人生について、島国ニッポンの私  
たちも関心を持たなければ・・・。

『ヒミズ』（日本映画）  
2012年1月14日、梅田ブルグ7 他にて公開  
監督：園子温 出演：染谷将太 二階堂ふみ 他  
3・11東日本大震災を受けて、舞台を急遽震災後のニッポン  
に変更して園子温ワールドが大展開！これぞどん底！という家  
庭環境下にある「未来を失くした少年」と「愛にすがりつく女」  
の壮絶な生きざまに驚愕！クライマックスにおける「頑張れ、  
住田！」の叫び声を、すべての日本国民はどう受け止める？も  
し可能なら、3人の女たちの「愛の地獄」を描いた『恋の罪』  
(11年)と合わせて、非日常の世界をタップリと！

『運命の子（趙氏孤児／SACRIFICE）』（中国映画）  
2012年1月14日、梅田ガーデンシネマ 他にて公開  
監督・脚本：陳凱歌 出演：葛優 汪学圻 范冰冰 他  
紀元前600年頃の春秋時代、司馬遷、史記、晋の国、趙氏孤  
児。そう聞いてわかる日本人は少ないだろうが、趙氏孤児は中  
国では『ハムレット』や『忠臣蔵』と同じように有名！権力闘  
争は世の常だが、同時に父子の愛も永遠。趙氏孤児の出生の秘  
密をめぐるスリリングな前半は『十戒』（56年）をはるかにし  
のぐが、後半の復讐劇の心理描写は賛否両論？さあ、陳凱歌監  
督の最新作が放つ問題提起を、あなたははかに受け止める？

坂和章平の独断と偏見による坂和事務所の

2011年の10大ニュース

- 1位 毛丹青教授の企画により、アジアで最もノーベル文学賞に近い中国人作家・莫言と対談（7月26日）
- 2位 中国語版『名作映画には「生きるヒント」がいっぱい！』の出版打合せのため、毛丹青夫妻と私たち夫婦の4人で上海旅行へ。写真撮影もバッチリ！いい本ができそう。（11月3日～6日）
- 3位 朝日新聞の「ニッポン前へ委員会」に『震災復興担当大臣を国民投票で！』を提出（5月）するも、見事落選（8月）！9名の委員も見ることがない？
- 4位 コートビル直近にある敷地20坪の4階建てビル「甲屋」を倉庫用として1棟借り（3月30日）。事務所を整理して、大会議室だったコートビル2階南側の30坪を賃貸募集中。そして、4階南側に加えて、北側17坪を大会議室として使用開始（12月）。
- 5位 『眺望・景観紛争をめぐる法と政策の新局面』の全原稿完成（10月）、2012年3月出版へ
- 6位 毛丹青教授と神戸国際大学の学生40名と共に、村上春樹原作の映画『ノルウェーの森』ロケ地見学のため、兵庫県神崎郡神河町を訪問（11月12日）
- 7位 第25回愛声会 表彰式・懇親パーティーで、従来の竹内まりやの『人生の扉』を変更し、北原謙二の『ふるさとの はなしをしよう』を熱唱（10月31日）
- 8位 第7回大阪アジア映画祭企画「映画連続講座2011」で「名作映画から学ぶ裁判員制度」（9月24日）を、また茨木市のまちづくり寺子屋で「景観まちづくりと法の活用」（10月20日）を講演
- 9位 中国語検定の4級と3級を同時に受検（11月27日）。さて、その結果は？
- 10位 今や恒例となった年間2冊のシネマ本の出版として、『2011年上半年お薦め50作』（『シネマルーム26』（7月））と、『2011年下半年お薦め50作』（『シネマルーム27』（12月））を完成



◆ 業務時間 ◆  
平日 午前9時～午後6時  
土曜日 午前9時～午後3時  
(業務時間外の相談をご希望の方はお申し出下さい。)  
\* 相談にこられる際は日時の予約をしていただき、関係資料を一式持参して下さい。  
\* また相談内容のメモを事前にFAXもしくはメールにていただければ幸いです。  
\* お車で来られる方はアクセスマップ(車・タクシー用)を参照して下さい。  
事務所のホームページ  
<http://www.sakawa-lawoffice.gr.jp/sub1-3-2007chizu.pdf>  
から印刷していただくか、連絡をいただきましたらFAXします。

**弁護士兼映画評論家  
坂和章平の出版物の紹介**

1974年以降の弁護士生活37年の中で書いた法律書は膨大な数に。また01年以降の映画評論家生活10年の中で書いた2000本以上の映画評論本は27冊に。そこで今回はその主なものを掲載します。『シネマルーム』はすべて、法律書もABCは無料で贈呈します。ご注文は坂和総合法律事務所までFAX(06-6364-5820)もしくはメール([office@sakawa-lawoffice.gr.jp](mailto:office@sakawa-lawoffice.gr.jp))で。但し送料は実費負担をお願いします。



これが今度是中国語に!

A (05年8月)

(10年12月)

まるとと坂和弁護士!  
坂和弁護士の奮闘ぶりが楽しめる!  
愛媛大学での「都市法政策」の集中講義を実況中継。  
はじめての中国語の本!

やっぱり坂和弁護士の映画評論はおもしろい! 『シネマルーム』シリーズ 充実のラインナップ

